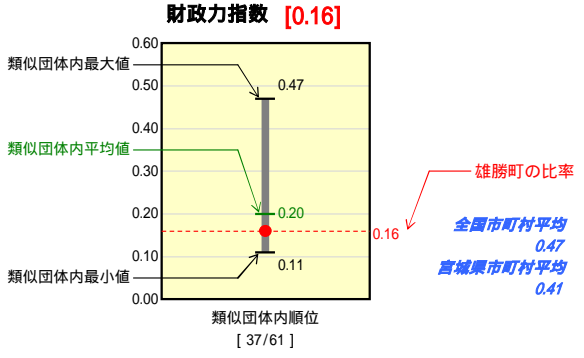


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

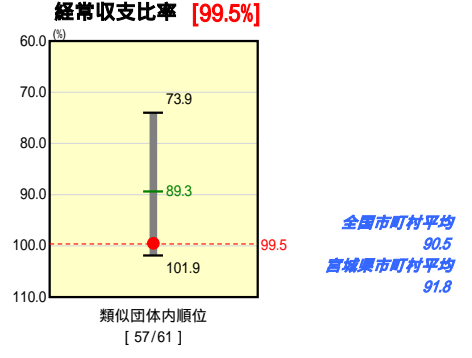
宮城県 雄勝町

人口	5,115 人(H17.3.31現在)
面積	46.12 km ²
歳入総額	2,832,253 千円
歳出総額	2,626,321 千円
実質収支	205,932 千円

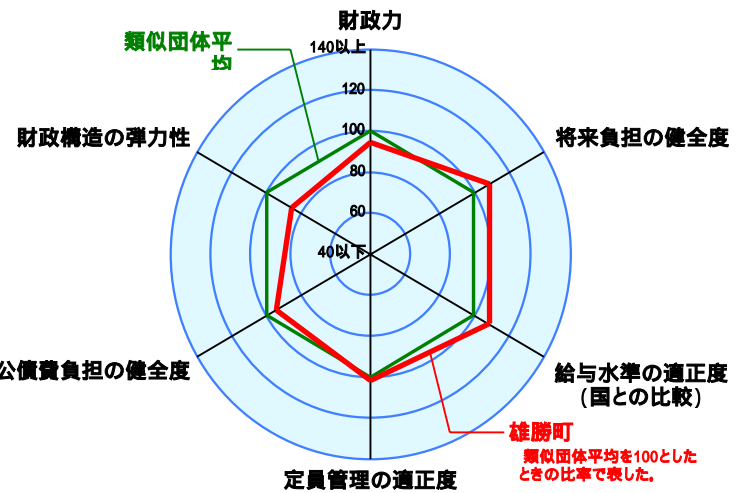
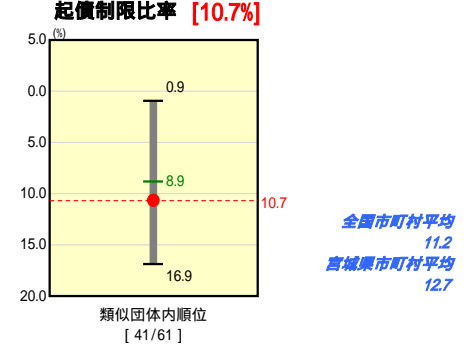
財政力



財政構造の弾力性



公債費負担の健全度



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を88のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。

分析欄

財政力指数

- 人口の減少や全国平均を上回る高齢化率(平成16年度末33.6%)に加え、町内に中心となる産業がないこと等により、財政基盤が弱く、類似団体平均を下回っている。基幹産業である水産業の衰退人口の減少の歯止めがきかないこと等により、ここ数年同規模で推移している。

経常収支比率

- 歳入の48.3%(平成16年度決算)を占める普通交付税が制度改革などによって年々減少している一方、大型建設事業の終了に伴う事業費支出人件費算入額の減少による人件費の増加が見られたことにより類似団体平均を大きく上回っている。平成13年度の決算統計において89.9%の高い数値になったことから、平成14年度において県内日帰り出張に係る日当の廃止、三役、教育長の給料月額7~10%の削減、期末手当役職加算5~15%を議員も含め廃止、管理職手当の一律3%削減等の改善対策を実施したが、それ以上に経常一般財源等の現象が大きかったことが一番の要因である。

起債制限比率

- 一般財源の乏しい本町財政にとって建設事業を推進するためには、地方債の活用が不可欠であるが、原則として普通交付税の算入があるものを借入れることとしているため、発行額に対して起債制限比率の上昇率は抑えられている。

人口1人当たり地方債現在高

- 起債制限比率に記載したとおり、地方債活用が不可欠であることから、必然的に地方債発行額が多くなってしまったため。

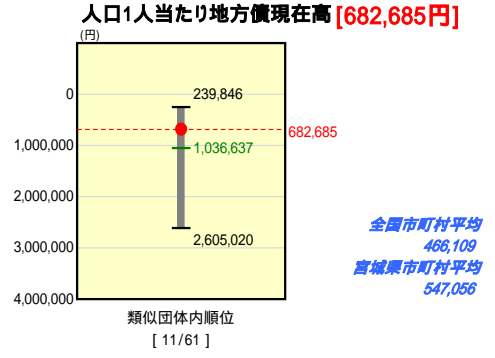
ラスパイレス指数

- 特別昇給の実施を極力抑えているため。

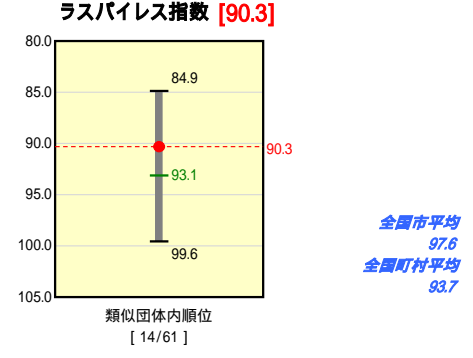
人口1,000人当たり職員数

- 類似団体の定員モデル数値を目標にし、退職不補充を中心とした人事管理を行ってきたため。

将来負担の健全度



給与水準の適正度(国との比較)



定員管理の適正度

